

町長日誌 No.174



町長日誌の第174号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

4月13日(金) PM1:00

空は青空なのですが風が冷たくてまだまだ春には遠い様な気配がします。

午前中に北オホーツク農協の第6回通常総会に出席しました。実は、私も組合員の一人なのですが農家の世代交代が進み組合員もすっかり若返りました。私と同年代以上での出席は本当に僅かで、興部も雄武も30～40歳代の組合員が大半です。現在の搾乳農家戸数は興部68戸、雄武67戸とどちらの町も離農は進んでいますがその分規模の拡大は進んでおり、この数年は牛舎建設やロボット搾乳、飼料の収穫・調整・配給作業の共同化などが次々に行われる状況です。さて、町民の皆様は興部の酪農家がどれ位の生産をしているかご存知でしょうか？

68戸の搾乳農家で10,204頭の乳牛を飼育しており、約5万tの生乳を生産しています。生乳だけで約50億円の生産額になります。町の予算規模以上の生産額です。さらには、乳牛や肉用、子牛などの販売が約10億円ありますので、興部の農家は60億円に上る生産販売をしているのです。しかもこの販売取引は365日毎日行われます。他の農業、例えば玉葱、小麦、ジャガイモ、野菜などでは1品目で通年販売されるものはありません。水産についても同様です。ですから、販売に係わる運送業や興部にある雪印メグミルクのような乳業工場などの関連産業では通年雇用が成り立ちます。昨年度、北海道の農業生産額は1兆2千億円を超えました。この約半分を酪農と畜産が担っています。最近、北海道のコメが美味しいと言う評価を得ていますが生産額は1千億円弱しかありません。漁業の販売額はオホーツク沿岸では順調ですが全道では不漁が続き昨年は3千億円を下回ってしまいました。これは生乳の生産額よりも少ないと言う状況で、原料不足からくる水産加工業者の経営が心配されています。人間と競合しない牧草などを主食として生乳生産を行う酪農は気象条件や土地条件が悪くても生産が出来る農業です。今から60年余りに北海道は3年連続の大冷害に襲われました。興部町も同様で、町は農協と

協議し畑作から酪農専業へと大転換を図りました。その時、今日の酪農の姿は想像もしなかったでしょうが、この決断があったからこそ今の「興部酪農」が存在していると私は考えます。興部町は130年の歴史を重ねてきましたが、後半の60有余年は酪農を育てた歴史でありました。

3月9日(金)

春の雨が降る日でしたが、浜町に「中セキ北海道(株)」さんが事務所兼整備工場を移転新築されオープンしましたので、少しの時間でしたがお祝いに伺いました。中セキ北海道さんはこれまで東町の国道238号線沿いにありましたが牧草収穫作業機の大型化により工場が狭くなったこともあり、一時は紋別への移転も考えられたようですが、何とか町内に留まって下さいました。道内の事業所でも特に大きな整備工場との事で大型クレーンを配備した大変素晴らしい施設でした。トドックさんと並んで浜町にまた一つ新しい企業施設が誕生した事は大変に嬉しく有難いことです。中セキ北海道さんの益々のご発展をお祈りいたします。

4月10日(火)

こちら新規開業のお話です。今月下旬に暫く不在でした司法書士事務所が開業します。長い間お仕事をされていた奈良紀夫さんがお亡くなりになって司法書士は雄武・西興部・興部で不在となっていました。以前に、奈良さんが病氣療養のため一旦仕事を辞められた時、「全国司法書士会」にお願いして興部での開業を募集した事がありました。今回、この記事を読んでいた石川県金沢市で司法書士事務所に勤めていた竹村大介さん(40歳)が奥様や二人のお子さんを連れて当町に移住して下さい、本日開業の運びとなりました。本格的な業務は20日過ぎになるかと思いますが、様々な相談に乗って頂けると思いますので、ご利用下さいませよう私からもお願いいたします。

3月、4月は別れと出会いの季節と言います。卒業、入学、転勤、退職など様々な出会いや別れがありますが、私が町長になってから興部町のことを毎週のようにPRして下さいましたSTVラジオ、土曜日の名物番組「日高晤郎ショー」のパーソナリティーを35年間務められた日高晤郎さんが4月3日にご逝去されました。日高さんとは様々な思い出がありますが、特に14年間に亘り毎週商工会、現在は観光協会から番組中のクイズの景品として町内各店の商品を提供させて頂きました。本来なら、STVラジオ営業部を通してそれなりの負担金を支払わなければ提供もPRも出来なかったのですが、日高さんが番組の中で決めていただいたことなので、これまで無料でPRさせて頂いています。このこと一つをとっても興部町はお世話になったと感謝しています。ある意味、誰よりも北海道の将来を危惧していた方で、その分辛口のお話が多かったように思われてなりません。日高さん長い間お疲れ様でした、ありがとうございました。どうか安らかに。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

